

姫路城（松口月城）
ひめじじょう まつぐちげつじょう

天下 第一 其の 名 在り
てんか だいいち その な あ

今日 登臨 無限の 情
こんにち とうりん むげん じょう

天守 層々 雲を 帯びて 秀で
てんしゅ そうそう くも お ひい

墨壁 巖然 万兵を 阻む
すみへき げんぜん ばんべい はば

銀鞍 白馬 昔時の 夢
ぎんあん はくば せきじ ゆめ

杖を 停めて 仰ぎ 看る 白鷺城
つえ とと あお み しらすぎじょう

天下第一在其名 今日登臨無限情
天守層層帶雲秀 壘壁巖然阻萬兵
銀鞍白馬昔時夢 停杖仰看白鷺城

解説 姫路城を詠じた詩。

語釈 ※登臨＝高い所に登って、下をながめわたすこと。 ※無限＝限りのないこと。 ※層層＝かさなっていること。 ※帶雲＝雲を伴う。 ※壘壁＝城壁をめぐらしたとりで。 ※巖然＝動かしがたい威厳のあるさま。 ※阻＝防ぎとめる。 ※銀鞍白馬＝白馬に銀の鞍を置いて。 ※白鷺城＝姫路城の別名。

通釈 日本の城の中で天下第一と謳われる姫路城の天守閣から下を眺めると、限らない情が湧き出てくる。天守閣は雲に届かんとするほど秀でており、城壁は威厳があり何人をも阻止するであろう。昔は白馬に銀の鞍を置いて登場した城主も夢又夢。私は杖を停めてウツトリと白鷺城仰ぎ見た。